

# 深川市立深川小学校

全校児童数：234名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : まなびポケット  
アプリ : ミライシード、  
Google Workspace for Education

### ■ 取組の方法

#### 1 タブレット端末の持ち帰りによる学校の教育活動と家庭学習の関連の促進

- ・児童がタブレット端末を必要に応じて持ち帰りできるようにし、家庭学習での有効活用を図る。

#### 2 「Classroom」を活用した課題の提示及び回収

- ・児童が「Classroom」に課題を提出することができるよう、学年、学級、教科ごとの「Classroom」を作成する。

#### 3 「オクリンク」や「ムーブノート」を活用した学習内容の確実な定着

- ・児童が家庭で、授業での自分の意見や振り返りを再編集するなどの課題を設定し、学習内容の更なる定着につなげる。

#### 4 AIドリルの活用等による個別学習の実施

- ・教師が提示する宿題と、「ドリルパーク」を活用し、各児童の進度に応じて家庭学習に取り組ませることで、学習内容の更なる定着につなげる。

#### 5 長期休業中のタブレット端末持ち帰りによるICT活用の促進

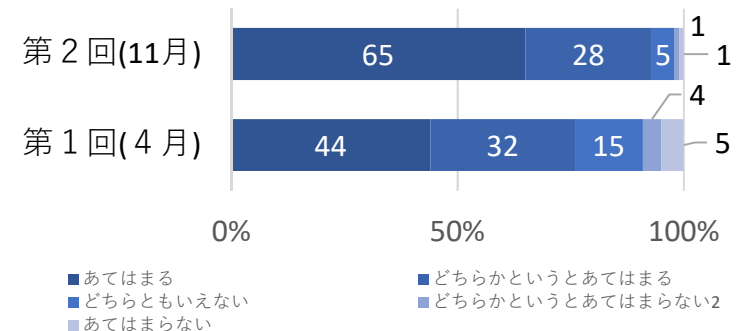
- ・タブレット端末の使用が生活に影響が無いよう、使用できる時間を設定するなどの工夫を行う。
- ・家庭と連携して、長期休業中に取り組みやすいタイピング練習などの課題を設定する。

### ■ 児童の変容

授業での活用に加え、持ち帰りによる積極的な使用を推奨してきたことにより、「タブレット端末を活用して問題や課題を見付けることができるようになった」と回答した児童の割合が21%増加した。また、タイピング練習は、低学年から取り組むことにより、着実な成果が表れている。

学習支援ソフト「ミライシード」の導入により、児童のタブレット端末の効果的な活用につながった。

「タブレットを活用して問題や課題を見付けることができるようになった」



# 江別市立上江別小学校

全校児童数：556名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : まなびポケット  
アプリ : スマイルネクスト

### ■ 取組の方法

- ・全教員に対し、令和4年度全国学力・学習状況調査の結果及び児童の実態から家庭におけるICTの活用についての取組を提案した。
- ・児童及び保護者に対し、「江別スマート4ルール」（スマホ・ネット等の利用に関する江別市共通ルール）、「上江別\_GIGA\_rule」及び週末の家庭学習における1人1台端末の活用を周知した。
- ・教職員でオンライン学習の方法や1人1台端末の保管、チェック体制の共通理解を図った。
- ・長期休業中に全教員でAIドリルを活用した課題を作成した。
- ・夏季休業中における「オンラインサポート学習」を実施した。
- ・7月及び11月に児童意識調査を実施し、結果を分析した。
- ・1人1台端末を活用した家庭学習の取組を児童及び保護者に紹介した。
- ・C B Tを使用した北海道チャレンジテストを実施した。

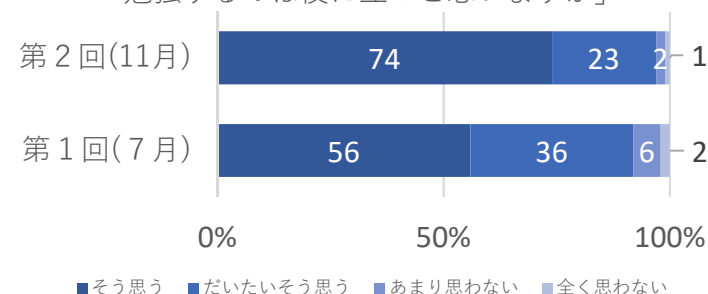


【オンラインサポート学習の様子】

### ■ 児童の変容

- ・児童が端末を持ち帰り、家庭学習で活用したことにより、児童アンケートの「家でコンピュータなどのICT機器で勉強するのは役に立つと思う」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が7月の92%から11月は97%となり、5%増加した。
- ・児童アンケートの自由記述において、「わからないことを自分で調べることができた」「楽しく学習することができた」などの回答があり、児童が端末を活用した学習のよさを実感するとともに、自分に合った学習方法に合わせて端末を活用することができた。

「家でコンピュータなどのICTを機器で勉強するのは役に立つと思いますか」



# 千歳市立北栄小学校

全校児童数：216名 実施学年：第1～3学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : まなびポケット  
アプリ : ミライシード、InterCLASS、  
Google Workspace for Education

### ■ 取組の方法

- ・児童が1人1台端末の操作に慣れていなかったことから、今年度は「1人1台端末の操作に慣れること」や「児童が家庭学習において1人1台端末を活用することができること」を目標にした。
- ・友だちの考えを参考にし、自分の考えを広げたり深めたりすることができるよう、「Jamboard」や「オクリンク」、「ムーブノート」などを活用した学習に取り組ませた。
- ・「Classroom」から課題を配信し、児童が練習問題を選んで学習に取り組めるようにした。
- ・感染症等による学年閉鎖の際、遠隔による授業配信を実施した。
- ・「InterCLASS」を活用し、オンライン学習に取り組む児童の様子をリアルタイムで把握することができた。

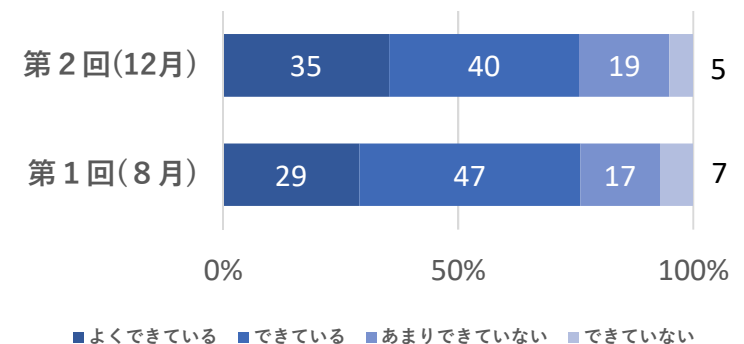


【遠隔による授業配信の様子】

### ■ 児童の変容

- ・12月実施の児童アンケートの「家庭学習で端末を使うことが好きですか」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が八割を超えるとともに、「毎日、家庭学習を学年×10分+10分くらいできていますか」の項目において、「よくできている」と回答した児童の割合が8月に比べ、6%増加するなど、端末を活用した家庭学習の取組により、児童の学習意欲を高めることができた。
- ・長期休業中に「Classroom」を通じて子ども同士、教師と子ども間で学習に関するやり取りをする姿が見られるなど、授業時間以外での学習の取組を充実させることができた。

「毎日、家庭学習を学年×10分+10分くらいできていますか」



# 千歳市立高台小学校

全校児童数：279名 実施学年：第3～6学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : まなびポケット  
アプリ : スマイルネクスト、ドリルパーク、  
Google Workspace for Education

### ■ 取組の方法

- ・全校児童による端末の持ち帰り及び家庭学習における活用に向け、教員の指導力及び児童の活用スキルの向上を組織的・計画的に推進した。
- ・第6学年において、年度当初から端末の持ち帰りを実施し、家庭における活用の充実に向け、学級担任が「Classroom」に課題を提示し、児童がデジタルドリル「スマイルネクスト」を活用して、課題に取り組むなど、学習内容の定着を図った。
- ・9月から、千歳市の小・中学校に導入されたAIドリル「ドリルパーク」を活用した。
- ・第3学年以上の児童を対象に、学級担任及び退職教員等外部人材講師による補充的な学習を実施し、「ドリルパーク」を活用した練習問題に取り組ませた。
- ・冬季休業中は、全校児童に端末の持ち帰りを実施し、「ドリルパーク」を活用して、児童が学習内容を復習できるようにした。

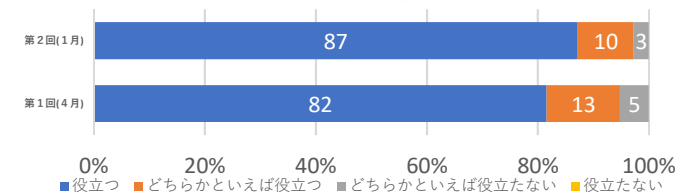


【AIドリル「ドリルパーク」の活用の様子】

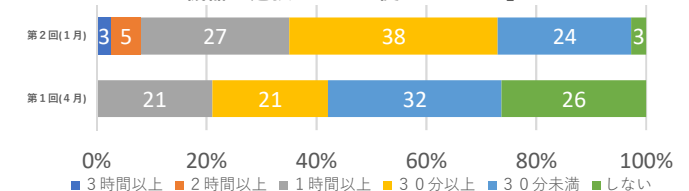
### ■ 児童の変容

- ・授業では、端末を用いて児童が自分の考えをまとめたり、他者と交流したりする場面が日常的に見られるなど、授業改善が進んだ。
- ・第6学年を対象にした児童アンケートの「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」の項目において、肯定的な回答をした児童の割合が97%に増加するとともに、「学校の授業時間以外に、1日どれくらいの時間、ICT機器を勉強のために使っているか」の項目において「1時間以上」と回答した児童の割合が増加するなど、家庭における端末の活用により、授業時間以外の学習の充実を図ることができた。

「学習の中で、PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う」



「学校の授業時間以外に、1日どれくらいの時間、ICT機器を勉強のために使っているか」





# 小樽市立高島小学校

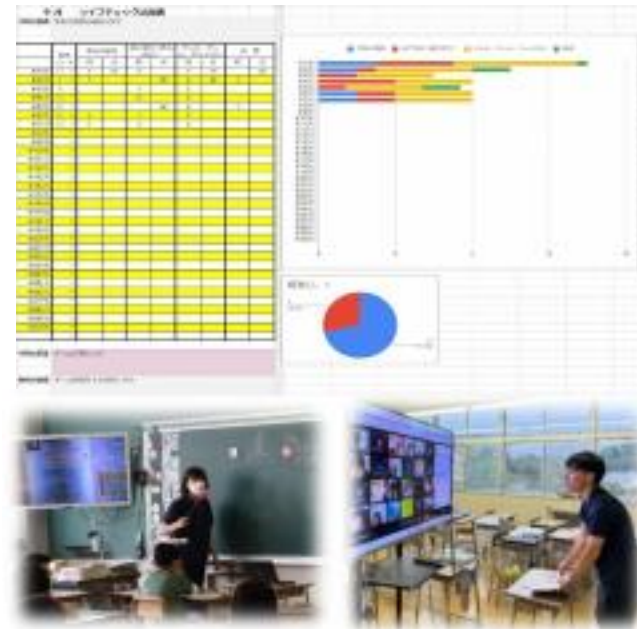
全校児童数：179名 実施学年：全学年

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : 実証用学習eポータル、学びポケット  
アプリ : ミライシード、  
Google Workspace for Education

## 端末持ち帰りモデル

### ■ 取組の方法

- **生活習慣スケジュール表の活用**
  - ・「スプレッドシート」への児童自らによる家庭での生活に関する時間等の打ち込みによる生活習慣の見直し
- **「Meet」を活用した学びの保障と家庭学習の取組**
  - ・日常的な欠席児童に対する同時双方向型授業の実施
  - ・学級閉鎖時における学級担任等による同時双方向型授業の各教科での実施
  - ・放課後、家庭から放課後学習に参加できる個別学習の実施
- **デジタルドリル「ミライシード」の実施**
  - ・端末の持ち帰りと合わせ、デジタルドリルを家庭学習の課題として実施



【欠席児童に対するオンライン授業と学級閉鎖時のオンライン授業の様子】

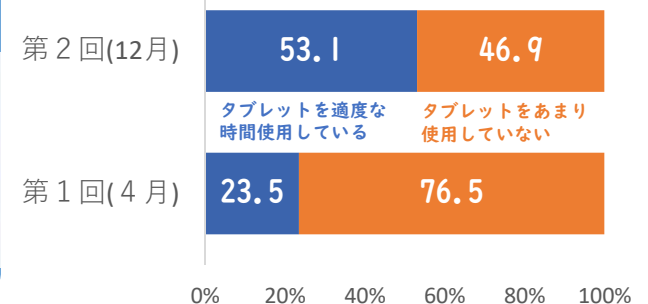
### ■ 児童の変容

- **「1日にどれくらいの時間、テレビを視聴していますか？」**  
3時間及び3時間以上（高学年：平日）と回答した児童の割合が、前期（4月～9月）は50.0%だったが、後期（10月～2月）は41.4%に減少した。
- **オンライン放課後学習の参加者数（全学年の総数）**  
前期（4月～9月）は42名だったが、後期（10月～2月）は50名に増加した。



【オンライン放課後学習の様子】

学校の授業以外のタブレットなどの  
適度な使用頻度（第6学年）



# 函館市立北昭和小学校

全校児童数：151名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : L-Gate  
アプリ : スマイルネクスト

### ■ 取組の方法

#### ○ デジタル・シティズンシップを基盤とした端末とクラウドを活用した家庭学習を支援する取組

##### (1) ICT環境の整備

- ・年度初めに、全職員で「北っ子 デジタル・シティズンシップ」を共有するとともに、全校児童及び全家庭に周知
- ・家庭における端末の使用時刻を保護者と協議

##### (2) 日常的な端末の活用

- ・各教科等の授業において、端末を活用した調べ学習や資料等の共同作成の場面の位置付け  
※第1学年は7月より活用
- ・放課後学習会において、学習アプリを活用した学習を支援

##### (3) 家庭での端末の活用

- ・家庭と連携し、学習アプリ「スマイルネクスト」を活用した家庭学習の支援

#### 北っ子 デジタル・シティズンシップ ver.3 ～Chromebookの使い方と権限との関わり方～ 函館市立北昭和小学校



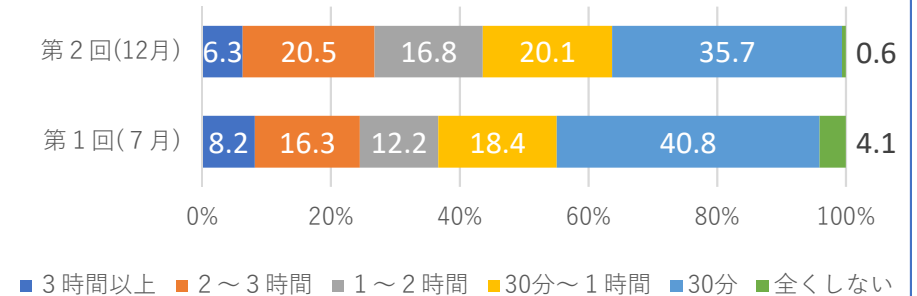
【デジタル・シティズンシップ（一部抜粋）】

### ■ 児童の変容

家庭と連携した家庭学習を支援する取組を推進したことにより、「ICTを使った平日の家庭学習の時間について」のアンケート項目において、1時間以上、家庭学習に取り組んだ児童の割合が増加した。

デジタル・シティズンシップについて、学校と家庭が共通理解を図ったことにより、学校内外に関わらず端末を活用した学習機会の充実につながった。

「ICTを使った平日の家庭学習の時間について」



# 美幌町立東陽小学校

全校児童数：270名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : L-Gate  
アプリ : eライブラリ

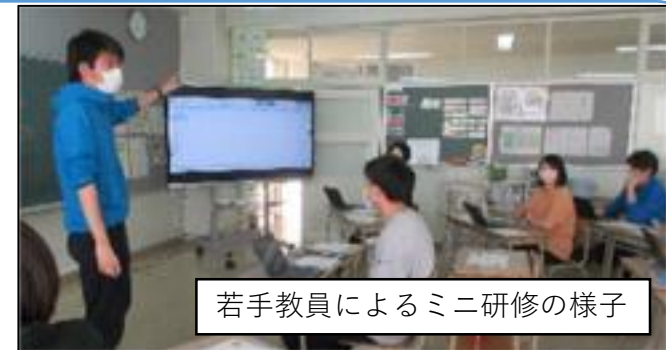
### ■ 取組の方法

#### 1 端末持ち帰りに向けた校内の取組

- (1) 若手教員によるミニ研修の実施  
端末の活用について、短時間で効果的なミニ研修を定期的  
に開催し、全教職員で共有
- (2) 検証改善サイクルの確立  
端末の持ち帰りに係る教職員アンケートを実施し、成果や課  
題を協議するとともに、ミニ研修会において取組を改善

#### 2 平常時の持ち帰りまでの流れ

- (1) 端末持ち帰りの試行  
週末のみ、eライブラリを活用して児童は課題を提出
- (2) 端末持ち帰り強化週間の設定  
端末持ち帰り強化週間を設定し、平日の持ち帰りを開始
- (3) 夏季休業中の端末持ち帰りの実施  
クラウドを活用し、生活表をオンラインで確認できる環境を  
整えると同時に、eライブラリを活用して児童は課題を提出



若手教員によるミニ研修の様子

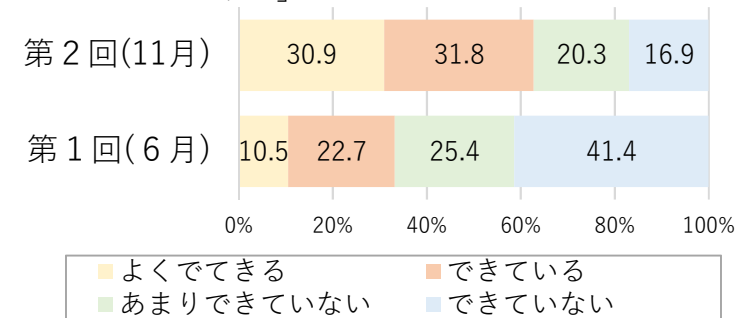


放課後「学習サポート」において  
家庭での端末の使い方を指導

### ■ 児童の変容

- ・ 6月と11月に実施した児童アンケート「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」の項目に対する肯定的な回答が、6月の33.2%から11月は62.7%に大きく増加した。
- ・ 学校評価における教職員アンケート「ICTを効果的に活用した指導を行っている」の項目に対する肯定的な回答が100%となり、端末持ち帰りが日常の授業における端末の効果的活用に繋がったと考えられる。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強  
していますか」





# 北見市立常呂小学校

全校児童数：88名 実施学年：全学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : L-Gate  
アプリ : スマイルネクスト、  
Google Workspace for Education

### ■ 取組の方法

#### 1 学校と家庭をつなぐオンラインを活用した取組

(1) チャット機能の活用

①オンライン学習のガイダンス ②学習状況の確認 ③質問受付

(2) 家庭学習の提示

①リコーダー演奏等の様子の端末への録画及び学級担任への提出

②学習の見通しや計画の確認

(3) オンラインでの対話を通じた健康観察や家庭での過ごし方の交流

①学級の仲間や学級担任、いろいろな先生との画面越しでの対話

#### 2 家庭学習の充実に向けたA Iドリルの効果的な活用

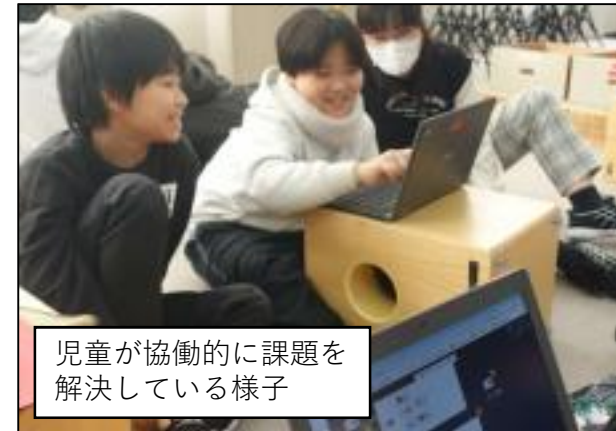
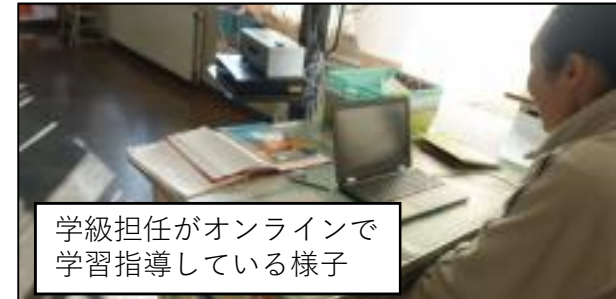
(1) 朝学習の時間や授業内における、国語や算数の内容を中心にした学習内容の定着度に応じた学びの進め方についての指導

(2) アプリを活用した児童一人一人の取組状況の把握と、学習進度等に合わせた個に応じた支援

#### 3 長期休業前、各5日間程度の放課後学習サポート教室の実施

(1) 長期休業中の生活や学習状況に応じた個に応じた指導

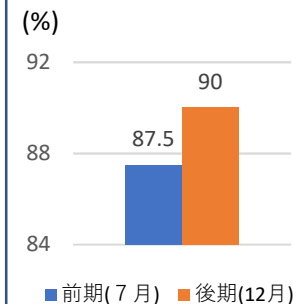
#### 4 全校児童がアクセスできる、「Drive」や「Classroom」の整備



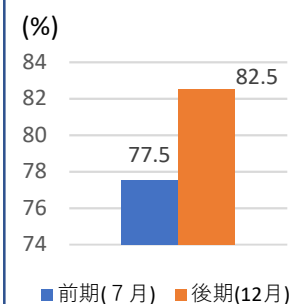
### ■ 児童の変容

- ・児童が端末を持ち帰り、オンラインを活用した取組を行うことにより、児童の学びを保障するとともに、児童の学習に対する不安感が解消され、安心・安全な登校につなげることができた。
- ・A Iドリルを効果的に活用した学習を行うことにより、見通しをもって自主的に学習に取り組める児童が増えるとともに、学習を苦手としている児童も前向きに学習を進めることができた。

(中学年)  
「家庭学習が充実している」



(高学年)  
「勉強がよく分かる」





# 池田町立池田小学校

全校児童数：203名 実施学年：第5学年（全学年）

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : まなびポケット  
アプリ : スマイルネクスト、  
Google Workspace for Education

### ■ 取組の方法

- 1 「スマイルネクスト」を家庭学習として活用
  - ▶ 児童は、国語・算数・理科・社会のドリルから選択して、自身の理解度に応じて取り組む
- 2 学級担任から家庭での課題をクラスルームに投稿
  - ▶ 学級担任は、課題を視覚化するとともに、授業と連動した内容を投稿し、取組の目的を意識させる
- 3 児童の質問を受け付け、回答
  - ▶ 学級担任は、放課後に時間を指定し、「Meet」や、チャットで家庭学習や授業についての質問を受ける
- 4 池田町電子図書館を活用
  - ▶ 学校は、朝読書・家庭での読書時間に、池田町図書館が配信する電子図書に親しむことができるようにする
- 5 長期休業中の記録として活用
  - ▶ 児童は、一日の生活の反省を短文等で記録し、自身の成長を自覚する



【クラスルームに投稿した課題】



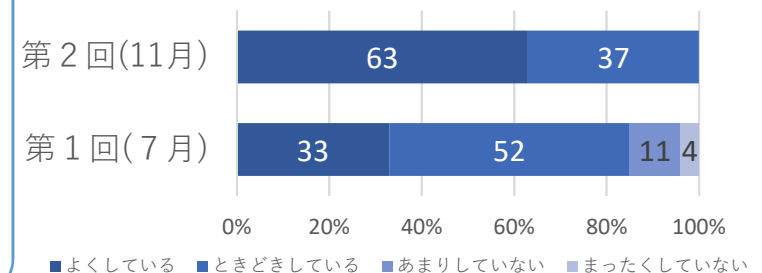
【電子図書館を活用する児童の様子】

### ■ 児童の変容

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」の設問について、肯定的に回答した児童の割合が、11月の結果が7月の結果を上回り、100%になった。

また、「家でコンピュータなどのICT機器で勉強するのは役に立つと思いますか」の設問について、肯定的に回答した児童の割合が、11月の結果が7月の結果を上回るなど、児童がICTを使った学習が効果的であると認識するとともに、児童にICTを活用した家庭学習の定着を図ることができた。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強していますか」



# 帯広市立啓北小学校

全校児童数：347名 実施学年：第3～6学年

## 端末持ち帰りモデル

デバイス : Chromebook  
OS : ChromeOS  
学習eポータル : 実証用学習eポータル  
アプリ : スマイルネクスト

### ■ 取組の方法

- ① これまでの市販のドリル教材の購入費用をAIドリルの使用費にあて「スマイルネクスト」を導入した。  
(家庭の負担増加なし)

- ② 端末持ち帰りは保護者の理解が重要であることから、1学期の参観日の懇談会で、児童が使う端末を実際に操作しながら端末やソフトの活用について周知した。

- ③ 日常的な端末持ち帰りを行い、家庭学習で活用した。また、第3学年以上は前期から、第1・2学年は後期から家庭学習での活用をスタートするなど、発達の段階に応じて開始時期を調整した。

★ 働き方改革の視点から、学年打合せの前日は学校全体で宿題や家庭学習をスマイルネクストのみとし、点検やコメント記入の時間を削減できるようにした。

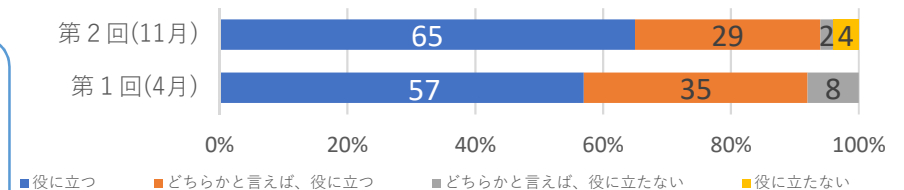


【懇談会で保護者が端末に触れる様子】

### ■ 児童の変容

- ・第6学年の意識調査において、「家でICTを活用することは勉強の役に立つ」と考える児童が増加するとともに、学習内容の幅の広がりや質の高まりなど、児童の家庭学習の取組に変容が見られた。
- ・保護者からは、「親子で一緒に調べ学習やまとめ学習を進められるので、楽しい」という声が寄せられた。
- ・ICTを活用した学習時間が増加したものの、一部の児童の変容に留まっているため、家庭学習の充実が図られるよう個に応じた指導・支援を行う必要がある。

「家でコンピュータなどのICT機器で勉強するのは役に立つと思いますか」(第6学年)



「月曜日から金曜日で、1日当たりどれくらいの時間、スマートフォンやコンピュータなどのICT機器を勉強のために使っていますか」(第6学年)

